

令和３年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	8 5	学校名		県立古河第二高等学校				課程	全日制		学校長名			萩原 明子			
教頭名	鈴木 俊樹											主査兼事務長名		片野 良教			
教職員数	教諭	4 3	養護 教諭	1	常勤 講師	5	非常勤 講師	5	実習教諭、実習講師、 実習助手		2	事務職 員	3	技 術 職 員 等	4	計	6 3
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合 計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通 科			8 5	1 1 5	8 4	1 1 4	8 3	1 0 5	0	0	2 5 2	3 3 4	1 5			
	福祉 科			4	2 4	5	2 4	3	2 8	0	0	1 2	7 6	3			
	計			8 9	1 3 9	8 9	1 3 8	8 6	1 3 3	0	0	2 6 4	4 1 0				

2 目指す学校像

生徒一人一人が、自らの夢の実現のため、いきいきと安心安全に学ぶことのできる学校づくりを力強く推進するとともに、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為の人材を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎学力が十分とはいえず学習意欲に乏しい生徒が少なくない一方、進学を希望し努力を重ねる生徒も多い。また、思考力・判断力・表現力の学習経験が不足気味であることから、授業はもとより学校活動全般を通じて、主体的に考え、判断し、行動するキャリア形成が必要である。	義務教育段階の学習内容の学び直しや学習意欲の喚起、生徒の思考力・判断力・表現力を育むための学習指導法の改善、生徒の個に応じた指導の充実を推進する。さらに、大学進学を希望する生徒の志望大学に応じた学習指導の充実が求められている。

進路指導	大学進学や国家試験合格への積極的志向を持つ生徒がいる (①) 一方、将来の目標を見据えることなく、安易な進路選択に甘んじる生徒も少なくない。その主な要因には、自分の能力・適性への見極めが適切でないこと (②)、社会で生き抜くための在り方・生き方を考えようとする主体性が不十分で、進路決定に積極的に関わろうとしない傾向があること (③) 等が考えられる。	①に対して、進路実現のため適切かつ具体的な対応策の充実が必要である。 ②に対して、如何に自己の資質や適性を理解させ進路決定への意欲を喚起するか、その手段の研究と実践が課題である。 ③に対して、如何に生徒自身が主体的に自己の進路を考えるように導いていくか、その手だての研究と実践が求められる。
生徒指導	基本的生活習慣の確立が不十分であり、生徒の生活や環境を踏まえた指導方法の確立が急務である (①)。学校生活への適応が苦手で、不登校気味となる生徒も見受けられる (②)。また、支援を必要とする生徒も増えており、そのための校内体制の整備も必要である。	①について、集会や面談を基盤にした恒常的な指導の具体化が課題である。 ②について、HR活動や教育相談・家庭訪問による指導の充実はもとより、外部支援体制の活用法の研究が課題である。
特別活動	学校生活に生きる活力や潤いを感じ、学校行事・部活動に積極的に参加しようとする意欲が全般的に低い傾向にある。	どうすれば多くの生徒が学校行事・部活動に意欲的に参加できるか、十分な研究と実践が必要である。
働き方改革	月平均 50 時間を超える職員は全体の 10%、40 時間を超える職員を含めると 8.3%いる。平日の部活動の従事時間が影響している。	部活動の効率化を図るとともに、今以上の休養日等の設定が必要である。また、一層の仕事の効率化を図ることや仕事の均衡化やワークシェアが必要である。

4 中期的目標

「自分を知る・人を知る・社会を知ること、自分を守り・人を守り・社会の構成員としての責任ある行動がとれる生徒の育成」を進めるため、次のような手立てを整える。 1 基礎学力の向上のため、義務教育段階の学習内容の学び直しを進めるとともに、進学希望者の進路実現に必要な発展的学力の向上に努める。教科指導の研修を充実させ、授業内容および指導方法の改善を図る。
--

- 2 生徒の進路意識を喚起する方法や進路情報提供の適切化を図り、また、本校の教育活動に対する保護者や地域の理解を得、学校・家庭・地域が三位一体となった教育環境の整備を推進することにより、進学、就職ともにより多くの進路実現を獲得する。
- 3 生徒理解を深め、生徒教師相互の信頼関係を確立することにより、生徒が問題行動に向かわず自ら回避する能力を育て、主体的な予防と再発防止を図る。
- 4 責任感・自主性・協調性等を養うとともに、部活動への積極的参加を呼びかけ、その活発化を促す。学校行事や生徒会活動を工夫し、豊かな心を育み、社会性や思いやりのある人間を育てる。
- 5 働き方改革を推進し、生徒の将来像を見据え、ニーズにマッチしバランスのとれた教育活動の展開をはかる。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
○学習意欲の喚起と基礎学力の向上	①分かる授業を実践することで生徒の学習意欲を喚起し、授業や家庭学習に取り組む習慣を身につけさせる。 ②学び直し等、生徒の基礎学力向上への取り組みや支援を積極的に推進する。 ③生徒が意欲的に授業に取り組むことで知の喜びを生きる力に変えられるように、学習指導に関する研修を推進し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業への工夫・改善を行う。 ④各教科で1年に2回以上は研究授業を行い、50%以上の生徒が肯定的に取り組めたという評価が得られるように指導する。 ⑤授業時間確保のために行事を精選する。 ⑥生徒の実態や進路希望に適応した特色ある教育課程の編成に努める。 ⑦福祉科において介護福祉士国家試験の合格率を80%以上を維持する。
○進路に関する知識と関心・意欲の養成、進路指導の充実	⑧3年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施し、生徒の将来への進路意識の啓発に努める。

	⑨年間指導計画の充実を図り、課外学習、進路講演会やコース別進路見学会等に力を入れる。 ⑩進学及び就職等、将来の進路先の開拓と充実に努力する。 ⑪インターンシップの定着を図るなど生徒の職業観・勤労観を深める機会をつくり、「キャリア教育」の推進に努力する。 ⑫就職内定率を 100 %、早期退職の未然防止等を図るため、生徒個々とのより充実した面談により、的確な進路実現をめざす。 ⑬生徒の進路決定満足度を 80%以上にする。 ⑭教科選択や授業内容・評価等に、各類型ごとの特色や目標を明確にし、進路指導をおこなう。
○問題行動の予防と再発防止及び規範意識や社会性の涵養	⑮規律ある基本的生活習慣の定着や問題行動の未然防止・早期発見に努める。 ⑯規範意識を高めるとともに、授業や特別活動等教育活動全体を通じコミュニケーション能力や自己指導能力等を育成する。 ⑰スクールカウンセラー等と連携して、生徒の健全な心身の発達を支援すると共に、特別な配慮の必要な生徒等を含めた生徒理解に努め、的確な指導にあたる。
○特別活動及び部活動への積極的参加の呼びかけと活発化	⑱学校行事・生徒会活動・ホームルーム活動等を通じて、生徒の豊かな心を育み、学校生活に対する意欲を育て、その充実を図る。 ⑲部活動への積極的な参加を推進し、その活発化を支援する。
○地域への情報発信と相互支援体制の充実	⑳生徒の活動や普段の取り組みを、地域社会に発信する手立てを工夫する。 ㉑PTA、中学校、地域社会との連携をより密にし、課題の共有、信頼、相互支援体制を経て、生徒育成への協働を図る。
○働き方改革の推進	㉒超過勤務 45 時間／月を超える職員が無いよう、業務の精査、ワークシェアをはかる。